

令和6年度 川崎市立日本民家園事業計画・評価シート

■評価

つぎの3段階とする。

A: 目標を充分達成し成果を上げている

B: 目標を概ね達成している

C: 目標を達成しておらず改善が必要である

■令和6年度の重点目標

- ・園内の安全対策の推進
- ・園内・古民家内の展示整備
- ・運営基本方針に基づいた事業運営

項目	令和6年度目標値	令和6年度実績値	令和5年度実績値	令和4年度実績値
総入園者数	138,000人	116,258人	115,373人	101,125人
有料入園者数(有料率)	55,200人(40%)	46,097人(39.7%)	45,281人(39.2%)	39,962人(39.5%)
外国人入園者数	10,000人	11,840人	9,669人	3,617人
総入園料収入	23,551,000円	20,423,270円	19,800,310円	15,848,420円
WEBサイトアクセス数(英語版)	660,000件(40,000件)	601,975件(46,181件)	618,193件(42,348件)	563,409件(25,076件)
来園学校数	160校	148校	166校	149校
伝統工芸館藍染体験参加者数(伝統工芸館事業収入)	1,500人 (5,000,000円)	2,213人 (11,740,449円)	1,990人 (6,677,001円)	1,351人 (4,868,521円)

令和6年度

1 保存・研究・展示・普及活動

(1) 文化財の保存・調査研究の推進

現状： 25件の文化財建造物を移築復原し、長期計画を立てて補修工事を実施している他、日常的な維持管理業務として燻煙と清掃を行っている。総合防災事業は、消火設備・防犯設備の機器更新、耐震補強工事が進行中である。資料の整理・研究活動については、建築分野では大岡實博士文庫の保管状況を改善しながら資料整理を進めるとともに、耐震補強工事報告書の刊行を進めている。民俗分野では引き続き暮らしと家をテーマに調査を実施、報告書の刊行を進めている。						
実施目標	中期目標(3年、R6まで) (目標水準)	令和6年度計画(目標水準)	令和6年度実績	今後の課題	R6 評価	中期 評価
1文化財建造物維持管理の推進	屋根修理工事(太田家・作田家・高倉 完成まで) 園路排水整備工事(山下家周辺、工藤家完成まで) 文化財建造物の適切な保存管理の推進(破損箇所随時) 文化財周辺環境の改善(支障木管理等)	作田家屋根修理工事(完成まで) 北村家・船頭小屋・小泉家便所・佐々木家井戸屋根修理工事(2年計画1年目) 山田家・水車小屋他電気設備改修工事設計(完了まで) 山下口周辺園路整備工事(完成まで) シロアリ防除(完成まで) 害獣駆除	作田家屋根修理工事(完成) 北村家・船頭小屋・小泉家便所・佐々木家井戸屋根修理工事(2年計画1年目完了) 山田家・水車小屋他電気設備改修工事設計(完了) 山下口周辺園路整備工事(完成) シロアリ防除(完成) 害獣駆除(4回)	内部評価 / 専門部会評価 屋根の劣化状況と耐震補強順位の調整	B / B	B
2総合防災事業・耐震補強工事の推進	耐震設計(井岡家) 耐震工事(太田家・作田家・井岡家) 既存設備(防災・三澤免震)定期点検・補修(各年1回)	作田家耐震工事(完成まで) 井岡家耐震工事(2年計画1年目) 消防設備点検(2回) 監視カメラ点検(1回) 三澤家免震装置点検(1回)	作田家耐震工事(完成) 井岡家耐震工事(2年計画1年目完了) 消防設備点検(2回完了)・維持補修(完了) 監視カメラ点検(1回完了)・維持補修(完了) 三澤家免震装置点検(1回完了)	老朽化設備の迅速な交換及び廃番機器対応 作業スケジュールの事前把握	B / B	B
3 収蔵資料の整理・調査研究の推進と成果の公表	本館地下収蔵庫の燻蒸実施(2年に1回) 民俗資料の整理推進(資料カードと現物のつき合わせ) 耐震工事報告書刊行(山下家・太田家) 「暮らしと家」調査(報告書2年に1冊刊行)	本館地下収蔵庫の燻蒸実施 江向家保管資料(カードと現物つき合わせ、段ボールからテンパコへ移し替え) 山下家、太田家耐震工事報告書(原稿編集まで) 「暮らしと家」調査(調査実施まで)	本館地下収蔵庫の燻蒸実施 江向家保管資料(カードと現物つき合わせ、段ボールからテンパコへ移し替え) 山下家、太田家耐震工事報告書(原稿編集委託調整中) 「暮らしと家」調査(調査実施まで) 「民家園だより発行」(2回) 大岡資料の写真資料目録データ入力完了 大岡資料整理(原稿・調査ノートⅠ、もんじょ箱へ移し替え) 新規収蔵資料受入(1点、受入から展示まで)	各民家収蔵資料の再調査と整理 継続的な整理の実施(期間等目標の具体化、進捗管理の実施) 「暮らしと家」調査実施・報告書刊行 大岡資料の継続的な整理 収蔵庫の燻蒸実施	B / B	C
評定意見	文化財建造物の維持管理に関しては、数多い対象に関して毎年度良く対応している。今後も、既存修理履歴データの更新による的確な中長期的修理予定と、現場の実態把握に基づいた説得力ある予算要求・獲得を望む。一方で、緊急の破損修繕対策費用についても、蓄積したデータを最大限活用して予算獲得して欲しい。総合防災事業と耐震補強事業も、前記と同様、既往の設備修理歴あるいは耐震対策履歴の記録更新に基づく正確な現状把握による、計画と予算獲得を望む。なお、耐震改修工事報告書委託の件は、今後の工事からは設計監理に一括委託する方法を検討すべきではないか。また、古民家耐震改修に伴う、屋根裏収納場所の減少は、あらためて野外博物館としての見解を確認する必要がある。					

(2) 展示の充実

現状：文化財建造物を野外展示し、それを補うため本館に展示室を設置している。各古民家では地域の民具や年中行事の展示を行っている他、囲炉裏での火焚きや生活用具の製作風景、さらには屋根の葺替えや耐震補強等の工事も展示の一環としてとらえ、作業風景を見せる工夫をしている。本館常設展示室では導入として日本の民家建築の基本を展示し、企画展示室では民俗や建築をテーマに年2回企画展を開催している。また、敷地内も展示として整備を進め、石造物を配置している他、民家の旧所在地に合わせた植栽や、景観にふさわしい案内板の設置を行っている。こうした展示には解説に英文を併記している他、12カ国語パンフレットや4カ国語音声ガイド(日英中韓)を導入し、外国人対応にも力を入れている。						
実施目標	中期目標(3年、R6まで)(目標水準)	令和6年度計画(目標水準)	令和6年度実績	今後の課題	R6 評価	中期 評価
1常設展示及び関連事業の充実	音声ガイドサービスの継続 園内展示整備(継続的美化、パネルのビジュアル化) 古民家解説の充実(古民家めぐり年24回、子供向けの定例化) 大規模工事ごとに見学会開催・解説パネル設置) 生田緑地植生管理計画に合わせた古民家周囲の植込みや畑の整備 車椅子でアクセスできない古民家内部の動画による視聴サービス	音声ガイドサービスの継続(二次元コード、タブレット貸し出し) 園内の展示点検(継続) 民家解説実施(24回) 子供向け民家解説実施(2回) さわれる民家解説開催に向けた準備(試行まで) 工事解説パネル設置(作田、伊藤、園路) 展示環境維持のための除草(継続) 100周年記念植樹 車椅子でアクセスできない古民家内部の動画視聴サービス(合掌造り2層3層) 園内民俗解説パネルの補修(5点以上)	音声ガイドサービスの継続(二次元コード、タブレット貸し出し) 園内の展示点検(1回) 民家解説実施(24回) 子供向け民家解説実施(2回) さわれる民家解説開催に向けた準備 アクセシビリティに関する研修開催(1回)及び関連団体との連携 視覚障害者向けの民家案内(1回) 工事解説パネル設置(作田、井岡) 展示環境維持のための除草(継続) 川崎市制100周年記念植樹 車椅子でアクセスできない古民家内部の動画視聴サービス(岩澤家) 園内民俗解説パネルの補修(16点) 緑化フェア関連事業の実施(生け花展示、期間中の無休開園等)	園内展示点検の恒常的な実施 工事の進捗に合わせた解説パネルの更新 車椅子でアクセスできない古民家内部の動画視聴サービスの実施	B / A	A
2企画展示及び関連事業の充実	民家博物館としての特性を活かした企画展示開催(年2本) 一般の人が手取りやすい解説図録の刊行(年2冊) それに伴う展示解説(会期中月1回)やワークショップの開催(年2本)	新企画展2本開催(前期:「くらやみー夜と眠りのフォークロア」、後期:「おじいさんは山へしば刈にー山と川の生活史Ⅰー」、図録刊行まで) 企画展示解説(一般向け10回、子供向け2回) 企画展におけるさわれる展示の設置(1回) 企画展に伴うワークショップの開催(2回) 企画展における解説パネルの英訳シート作成(各企画展) 企画展終了後の資料整理	企画展2本開催 図録刊行(1冊) 企画展示解説(一般向け7回、子供向け4回(うち1回体験型解説)) 企画展におけるさわれる展示の設置(7回・展示解説の中で実施) 企画展に伴う関連講座の開催(2回) 企画展における解説パネルの英訳シート作成(各企画展) 企画展における子ども向けクイズ型ワークシートの設置(1回) 広報・ポスター作製(2回) 企画展終了後の資料整理	企画展示の広報強化	B / A	A
評定意見	目標として掲げた項目はすべて達成できている。加えて、民家園利用者のアクセスビリティ向上に積極的に取り組んでいることも評価できる。ただし、日本民家園は近世の人びとの暮らしぶりを保存、来園者に理解していただく博物館であるという特性から、バリアフリーなどが難しい施設でもある。今後は、身体の不自由な方などの受入体制をどのように整えるか、民家園ならではのアクセシビリティの向上について検討してほしい。また、触れる展示など、これから充実させていくとすれば、民家に展示している民具類の整備も重要になってくる。保存面からも展示している民具類のメンテナンス方法について検討されたい。 企画展や関連事業、図録など充実した展示活動が継続的に実施されていることも高く評価できる。ぜひ広報面を強化して、広く周知させる工夫をお願いしたい。					

(3) 教育普及活動の充実

現状： 教育普及活動として体験講座・ワークショップ等を実施、特に子どもや親子向けの行事、当日自由参加型の行事に力を入れている。また施設の特長を活かし、古民家の旧所在地と連携した事業として各地の芸能公演や物産展などを行っている。この他、学校との連携を進め、小学生の学習プログラムや中学生の職業体験の受け入れを行っている。また、民家園の運営を支える炉端の会（ボランティア）・民具製作技術保存会（市民活動団体）と協力者会議を開催し、事業運営の改善を進めている。さらに、指定管理者は伝統工芸館や古民家カフェの運営を行っている他、さまざまな自主事業を行っている。						
実施目標	中期目標（3年、R6まで）（目標水準）	令和6年度計画（目標水準）	令和6年度実績	今後の課題	R6 評価	中期 評価
1 各種事業（講座・ワークショップ・催事）の充実	自由参加型・体験型事業の充実 生田緑地他館等との連携事業の充実（年2回） 旧所在地交流事業の実施（年1回以上） 伝統芸能公演の実施（年1回） 市民団体との連携による昔話公演（年25回）	体験講座の実施（竹細工、わら細工、機織り） 夏休み子供向け講座の実施（1回） 当日参加型体験事業（昔遊び、七夕他） 科学館との連携事業実施（七夕、月見） 旧所在地交流事業の実施（南砺市） 伝統芸能公演の開催（1回、歌舞伎） 昔話公演（25回） 夜間公開（2日間） ゴールデンウィークでのワークショップ実施（2種）	体験講座の実施（竹細工、わら細工、機織り全12講座、うち夏休み親子体験講座2講座） 当日参加型体験事業（昔遊び、民具着用体験、七夕、井戸汲み、蚊帳体験、草バッタ作り、お正月遊び） 科学館との連携事業実施（七夕、月見） 旧所在地交流事業の実施（南砺市） 伝統芸能公演の開催（1回、歌舞伎） 昔話公演（26回） 夜間公開（2日間） ゴールデンウィークでのワークショップ実施（ずりだし、かぶと作り） 市民館講座への協力（高津市民会、講座1回）	教育普及事業中の危機管理 旧所在地交流事業の実施方針検討	B / A	A
2 学校連携の充実	学校団体の体験・見学受入（年間150校） 学習教材の継続的な見直し 職業体験・総合学習等のプログラム受入 学校郷土資料室等整備支援（2校、メンテナンスの実施）	小学校向け体験プログラム・見学の受入（150校） 中学校の職場体験受入 ギガ端末の活用（児童向け事前学習資料、教員向け説明資料の配信） 博物館実習、実測実習等大学の利用受入 学校郷土資料室等整備支援（1校）	小学校向け体験プログラム・見学の受入（121校） 中学校の職場体験受入（5校） ギガ端末の活用（授業で活用できる教員向け説明資料の配信） 博物館実習生受入れ（9校） 学芸員課程等大学受入れ（4校） 大学特別利用受入れ（22校） 大岡資料等の閲覧件数（6件） 学校郷土資料室等整備支援（2校） 高等学校の総合学習支援（1校）	学校見学の質の向上 小学校体験プログラムの定期的な見直し 教材用民具のメンテナンス ギガ端末の有効活用	B / A	A

3市民活動団体との連携	炉端の会、民技会との連携の強化 両者との協力者会議による運営改善(年1回) 生田緑地マネジメント会議・自然環境管理保全会議との連携(年7回会議出席)	協力者会議開催(1回) 炉端の会との協働(各種行事での協働、チーム活動の活性化支援) 民技会新人研修(1回) 生田緑地マネジメント会議への出席・意見聴取(5回)	協力者会議開催(1回) 炉端の会との協働(各種行事での協働、30周年記念事業の実施(講演会、記念植樹)、チーム活動の活性化支援、学習会の開催(7回・うち1回ゲスト講師)) 民技会新人研修(1回) 生田緑地マネジメント会議への出席・意見聴取(2回) 緑化祭における皇室との交流事業(炉端の会、民技会など6団体)の実施	コロナ後の炉端の会、民技会との連携のあり方の再検討	A / A	B
4伝統工芸館・自主事業の充実	本藍の継続的使用のためスタッフの技術向上(研修継続) 藍染めの魅力の情報発信 自主事業の充実(年5回以上) 古民家カフェの運営(継続) 指定管理者変更になった場合の円滑な移行 コロナ終息後、外国人向け藍染めプログラムの再開	出張ワークショップや物販の実施 体験・講座のスムーズな申込みためのシステム運用(継続) SNSを使用した伝統工芸館からの情報発信(継続) ミニ展示開催(5回) 展示品の販売(Tシャツ他) 藍染め新商品の開発(5点) 自主事業イベントの充実(ペーゴマ大会他) 春と秋の古民家カフェ営業(運営継続) 通販事業への積極的な取り組み(新商品の追加、広報強化) ワークショップ等のイベントのインバウンド対応 工芸館2階を活用した藍染め以外のイベントの実施 緑化フェア開催に向けた協力	出張ワークショップや物販の実施(ラプーナ川崎、緑化フェア会場、川崎日航ホテル) 体験・講座のスムーズな申込みためのシステム運用(ウラカタ、フォームズの継続利用) SNSを使用した伝統工芸館からの情報発信(Xの継続利用) ミニ展示開催(10回。端午の節供、干支他) 展示品の販売(Tシャツ、節供タペストリー他) 藍染め新商品の開発(3アイテム×各柄3種以上。サコッシュ、飾り付きタペストリー他) 自主事業イベントの充実(ペーゴマ大会、日本酒講座、おさんぽバッグ他) 春、秋、お正月の古民家カフェ営業(運営継続) 通販事業への積極的な取り組み(新商品の追加7点、広報継続) ワークショップ等のイベントのインバウンド対応(参加受け入れ) 工芸館2階を活用した藍染め以外のイベントの実施(自由研究「和紙・紙漉き」) 緑化フェア開催に向けた協力(会場装飾やフェアロゴ柄の手拭い納品、ワークショップ出展など)	インバウンド向けイベント、または、インバウンドが参加しやすいイベントづくり オンラインショップによる販売の売り上げの底上げ 緑化フェアへの協力と通常業務充実の舵取り	B / A	A
評定意見	教育普及活動に関して、目標を上回る成果を上げることができた。来園者のさまざまなニーズに対応した講座・ワークショップを開催しており、学校や他の博物館との連携事業、旧所在地との交流事業も精力的に実施できている。特に、小学校から大学まで幅広く連携がなされており、民家園を活用した新たな展開が期待できる。令和6年度は、協力者会議も開催され、民技会、炉端の会といったボランティアグループとの連携強化も図られた。 また、伝統工芸館では、自主事業の多彩なイベントが好評であったことが事業収入の大幅な増収からも裏付けられている。					

2 運営・管理活動

(1) 博物館経営の強化

現状：平成25年度より指定管理者制度を導入し(5年毎に更新)、学芸業務と全体の統括業務は川崎市が、管理運営業務と広報業務を指定管理者が担っている。市の職員、指定管理者の職員、いづれも資質向上のため各種研修に積極的に参加し、来園者の満足度向上を目標にリピーター確保のための工夫を重ねている。						
実施目標	中期目標(3年、R6まで)(目標水準)	令和6年度計画(目標水準)	令和6年度実績	今後の課題	R6 評価	中期 評価
1運営体制の整備・研修の充実	民家園運営基本方針の策定(完了まで) 研修機会の確保(市職員年1回以上) 事業評価の実施と活用(毎年実施・公表) 次期指定管理への円滑な移行(現指定管理は令和4年度まで) 民家園ルールブックの整備(継続)	運営基本方針の周知(公式サイト等) 庁内外の研修への参加(市職員1回以上) 事業評価の実施と活用(実施と公表) 窓口の事例等を明文化した民家園ルールブックの整備(継続)	運営基本方針の周知(公式サイト掲載、冊子印刷) 庁内外の研修への参加(市職員1回以上) 事業評価の実施と活用(実施と公表) 窓口の事例等を明文化した民家園ルールブックの整備(継続) 他博物館との連携(資料貸出1回、視察2回、全国文化財集落施設協議会の開催)	窓口対応事例のさらなる蓄積と共有化	B / B	B
2広報の強化	公式サイトの充実 Twitter・YouTubeを活用した広報 生田緑地他施設・他局・観光協会・地元商店会・神奈川県等と連携した広報 指定管理者構成企業のルート等を活用した広報の充実 指定管理者変更になった場合の公式サイトの円滑な移行 コロナ終息後の訪日外国人に向けた広報	X・YouTubeの継続的な広報活用 Xフォロワー数の増加(計3500人[5/22現在3,378人]) 来園者によるSNS等発信の促進 指定管理者構成企業のルート等を活用した広報 生田緑地他施設・他局・観光協会・神奈川県等と連携した外国人向けを含めた広報 催事等リリースの作成と発送の充実 近隣駅へのポスター掲出、チラシ配架の強化	Xの継続的な広報活用 正門・西門での動画による広報 Xフォロワー数の増加(3月末時点3,701人) 指定管理者構成企業のルート等を活用した広報(東急電鉄駅へのポスター掲出の継続) 生田緑地他施設・他局・観光協会・神奈川県等と連携した外国人向けを含めた広報(県や市によるSNSへの情報提供他) 催事チラシ、ポスターの作成と発送 近隣駅へのポスター掲出、チラシ配架の強化(登戸駅他小田急線沿線)	Youtubeを用いた広報 企画展の広報強化 外国人向け広報の強化、外国語リーフレットの内容更新 反響の大きい優れた広報先の新規開拓 マスコミへのリリース発信の強化	B / B	B
評定意見	全体的に年度計画は概ね達成されている。 入園者に関する定量的データは、多くの項目で前年度実績を上回ることができた。 民家園運営基本方針は、外部から関心を持たれて調査を受けるなど、野外博物館における優れた事例であり、また広く社会・市民に民家園の存在と取り組みを知ってもらうためにも、さらに周知に努めるとよい。 職員を各種の研修に参加させている点は評価できる。オンライン同時配信、オンデマンド録画配信される研修は、職場にいながら受講できる長所があり、一方で直接対面による研修は、会場でしか得られない情報や、講師・参加者間の交流・人脈構築等の効果もある。引き続き各種研修に積極的に参加するようにしてもらいたい。また、研修の意義を高めるため、受講内容や成果の園内職員全体への共有展開についても、十分に考慮すること。 本項に立項・記載すべきかは検討を要するが、資料貸し出し、展示協力、特別利用、各種相談等、他の博物館や一般に対する連携・協力等を、事業評価項目に加えることも考慮するとよい。 広報について、マスコミへの働きかけが計画通りではなかった部分がある。記事化等、無料で取り上げてもらえる場合もあるので、地元支局や地域紙・地域放送局等への働きかけを積極的に行うとよい。 民家園は全国区の存在・知名度であるのに、催事の広報物送付先が、市内施設中心になっている。エリアを広げ、各地の博物館等へも発送することを検討するとよい。 外国人入園者数の伸びが好調であるが、これは民家園からの情報発信の成果に加え、外国人の場合、来園者による発信が次の来園者を呼ぶ面もあると思われる。外国人向け広報の充実、来園者が発信したくなる工夫も、継続してもらいたい。					

(2) 利用者の利便性・安全性の向上

現状： 来園者サービス施設として救護室や授乳スペース等を整備、ベンチやテーブル等のリニューアルも進めている。また、バリアフリー化として古民家の敷居にスロープを用意、園路についても手すりの設置や土舗装化など対応を進めている。この他、来園者へのサービス向上のため、ショップの充実と窓口業務の改善に努めている。危機管理については各種防災訓練を実施、危機管理マニュアルを随時更新している。						
実施目標	中期目標(3年、R6まで)(目標水準)	令和6年度計画(目標水準)	令和6年度実績	今後の課題	R6 評価	中期 評価
1来園者サービスの向上	休憩スペースの充実とメンテナンス 民家園の特色を活かした継続的な商品開発(毎年2点) 指定管理者変更になった場合のショップの円滑な移行 さまざまな来園者に配慮したハード面、ソフト面での環境の整備(バリアフリー、外国人対応)	日陰で座って休める場所の増設、園路の日陰箇所のご案内 民家園の特色を活かした新商品・カプセルトイの開発(5点) 券売キャッシュレス決済導入後の検証 ショップ商品表示の日英併記化(継続) 小さな「バリア」の継続的点検と逐次対応 伝統工芸館空調設備の改善	民家園の特色を活かした新商品・カプセルトイの開発(10点。洗濯板、刷毛、畳縁他) 券売キャッシュレス決済導入後の検証(問題点の報告) ショップ商品表示の日英併記化(継続) 小さな「バリア」の継続的点検と逐次対応 伝統工芸館空調設備の改善(エアコンの更新) 売払い物販を目に触れやすい場所へ移動し、販売強化	真夏の猛暑への対応検討 伝統工芸館の空調設備の拡充 インバウンドを意識した価格帯の商品開発 現行商品の精査実施とターゲット層の広いオリジナル商品開発	B / A	B
2危機管理体制の整備	園路危険箇所の定期的な点検 危機管理マニュアルの継続的更新 消防署との連携による防災訓練の実施(年4回) 電気系統の定期的な点検 新人警備員の研修充実 来園者の避難経路の再確認	園路危険箇所、落枝・倒木の継続的な点検と対応(通年) 新規スタッフも含めた危機管理マニュアルの読み合わせ ボランティアや清掃スタッフも含めた防災訓練実施(年4回) 古民家の漏電対策として継続的な点検の実施(各棟1回)	園路危険箇所、落枝・倒木の継続的な点検と対応(通年) 新規スタッフも含めた危機管理マニュアルの読み合わせ ボランティアや清掃スタッフも含めた防災訓練実施(年4回) 古民家の漏電対策として継続的な点検の実施(各棟1回)	園内危険箇所の把握と対応強化 災害対応がより身近に感じられる訓練実施	B / B	B
評定意見	来園者サービスに関しては、目標以上の成果を上げている。 ミュージアムショップは、新規商品の開発や陳列方法の見直し等、よく努力している。 キャッシュレス決済が導入され、その利用者も多いが、地形に由来すると考えられる電波状況の不安定については、生田緑地全体の問題として関係機関に改善を働きかける等、支障解消に努めることが求められる。 野外博物館として、夏季の猛暑対策は、入園者の安全のために重要かつ喫緊の課題である。民家園の景観、園内工事の進捗との兼ね合いも考慮しつつ、ハード・ソフト両面に対策を検討し、実施して、事故の未然防止に努めること。 危機管理について、概ね計画通り実施されている。 防災訓練は、計画通りの回数実施しているが、国内では最近も重要文化財建造物の焼損事故が発生しており、訓練は実施し過ぎることはない。様々な想定の下、関係機関と連携し、園内の様々なスタッフの参加を得て、災害時に的確な対応ができるように訓練を重ねてもらいたい。 事故を未然に防ぐために、園路の整備を進め、危険箇所の把握と対処を継続して進めること。					